

では、最後に少し放浪記のお話をしたいと思います。

今から約50年前、大学に入った当時は学生紛争がまだ続いていて、私も一年の時は、デモにも参加しましたし、〇〇派(全共闘、中核、革マル、)というようなグループに入っていないくても、下宿の仲間、先輩、部活の連中と朝方まで議論したりしました。授業もよく休講になりました。

そうこうしている間に、こんなことをしていいのか?折角大学に入ったのだから、何か自分でやりきったと思えるようなことをしたいと思うようになりました。海外放浪記のような本を何冊か読むにつれ、その影響もあってか、とにかく一回外国に行ってみたく、それは学生時代の「今!」しかできないことだとの思いが益々強くなりました。

最初は、シベリア鉄道でヨーロッパへ行く計画を立てましたが、お金もかかるし大変そうだと、アメリカの方が行けそうということになり、船で行くことにしました。

しかし、お金がない訳です。当時は1ドル360円の時代ですからね、しかも持ち出しの制限もあり、休学して行っても3ヶ月くらいしか滞在できない訳です。

アルバイトをして旅費と1000ドル(36万円)を何とか貯めてハワイまでまず行こうと、その後は働けば何とかなるさ、今から思うと非常に安易ですよ。

これは旅ルートですが、ハワイまでの船は一番船底でしたので横浜港を出発したとたんずーと船酔いですよ。ハワイに着く頃ようやく直りました。ハワイで皿洗いでも何でもよいので職を探そうと思いましたが、ワーキングビザを持っていないのでダメなんです。仕方なくロサンゼルスまで行って探した職がハウスキーパーでした。

いわゆる、住み込みの家政夫(家事手伝い)と、子供の相手です。

これは最初の家のご夫妻との写真ですが、小学2年生の男の子が一人いる共働きの本当に一般の家庭でした。そこでは朝、まず早く起きてコーヒーを入れるのですが、それを旦那さんが取りに来て奥さんに持っていくんです。昼間は掃除、洗濯をして子供が学校から帰ってきたら遊んであげて、夕食の準備をする訳です。

今から約50年も前のアメリカの一般家庭の生活は、今の日本よりも進んでいたと思います。冷蔵庫は当然氷が直ぐに出てくる、洗濯機は乾燥機付き、ラジオはFM局が20位24時間流れている。流し台にはディスポーザがあり、ティッシュペーパーは使い放題。車は2台、3台あって、ガレージはリモコンで上げ下げするんですよ。

日本はこんな国と戦争していたのか、絶対に勝てないと思いましたね。

何せ、もぐりのエージェントを通しての紹介ですからね、英語は高校時代、シェークスピアも習っていて問題なし、料理は米軍基地でコックの経験あり、という触れ込みですから、もう嘘八百で採用されていますので、相手もそうだと思う訳ですね。

しかし、徐々に化けの皮が剥がれていく訳です。

一番困ったのが、昼間奥さんの友人からよく電話が入るんですよ。電話の内容は殆ど解らないのです。相手の名前もよく聞き取れない、曖昧な名前で電話があったことを伝えるだけが精一杯です。結局、お前とは意思の疎通ができない、と一ヶ月でクビになりました。

しかし、エージェントは直ぐに2件目を紹介してくれる訳です。手数料が入りますか

らね。2件目の家は目の前がサンタモニカの海岸で、よく子供と釣りに行きました。奥さんは4大自動車会社の一つダッジの創業者の孫かひ孫、旦那さんはベトナム戦争帰り、結婚してなくてね、お金は山ほどある訳です。掃除と子供の相手さえしてくれればいい、そんな家ですから楽な仕事でした。しかしあるとき事件が起きまして、外出先から戻ると旦那さんからショットガンを向けられて、暗かったせいかわいだ！と言われました。先ほど、ヒッピーの連中が銃を乱射してまだ犯人はまだ捕まっていない、危ないからお前も今夜からこの銃を枕元に置いて寝ろ！と言う訳です。でも玉は入っていないんです。ちょうど1ヶ月ぐらい経っていて少しお金も貯まったので、これは潮時ではないかと思い、次の町サンフランシスコに行くことにし、そこで学校にはいりました。

カリフォルニアには、中南米から来ているメキシカンなど移民が多くいますが、無料で受け入れてくれる学校があるんですね。先生の資格をもった人が、小学生と同じように教えてくれる訳です。アメリカはすごいなあーと思いましたね。

2ヶ月程通ったと思います。そろそろ全米を廻ろうかと、旅ルートにあるようにニューリンズ、マイアミ、アトランタ、東海岸、カナダトロントなど主要都市を廻りました。本で読んだニューオーリンズの町の様子も違いました。本当のところは分かりませんが黒人はいつも差別されて暗い様子を想像していましたが、皆日々の生活を一生懸命生きている印象を受けました。今でも差別はあると思いますがそればかりでもないのです。

移動はすべてグレイハウンドというバスです。外国人用に3ヶ月フリーパスがあり、バスで寝泊まりが出来る訳です。しかし、お金がありませんから何で節約するかと言えば、食べ物を減らすしかないのです。一日コーラ1本とかね。常に腹を空かしながら、でも色々見てみたい、行ってみたいと我慢しながら廻りました。

ニューヨークでは安いホテルを借りて一週間ほどいました。ハーレムいう場所も当然見たいと行きました。絶対に行ってはいけない場所でしたが、髪はボサボサ、ジーパンにアーミールックの汚らしい若者を襲う連中はいないのです。有名なJAZZライブハウスVillageVanguardにもよく通いました。ビール1杯5\$で2~3時間生が聞ける訳です。

食事は一日一回、いつも食パンにケチャップ、キャベツだけ、時々ハムを買った時はすごいご馳走で幸せな気分になりました。

しかし、今思うといつも腹を空かしながら貧乏旅を続けていましたが、好奇心だけはあって目はギラギラしていたし、自分自身の神経が研ぎ澄まされていくような感じがありましたね。

これはメキシコに行ったときの写真です。

ユカタン半島の先に「イスラ・ムヘーレス」という島があります。所謂「女の島」です。これは絶対いかなくても、とワクワクしながら行ったのですが、行ってみたら何と普通の島でした。しかし、我々のような若い連中がヨーロッパなどからもいっぱい来ている訳です。ハンモック一泊200円みたいな場所があって、そこではマリファナなんかも吸ったりして、色々な話をしました。本当に有意義な時でしたね。

これは、会社に入ってから、第一回世界ソフトウェア品質会議(1WCSQ)に出席する機会

<p>があり、その時の写真です。</p>
<p>何とこのサンフランシスコの立派なホテルは、当時英会話学校に通っていた頃、友人と天皇陛下が宿泊する超一流のホテルと聞いて、中に入ってみようと思い足を踏み入れた途端、ドアマンが飛んできて、「こら、ここはお前達のようなみすぼらしい身なりの人間がくるところではない、直ぐに出て行け」と追い払われたホテルだったので。そのホテルで25年後に、会議の発表で自分が来るとは思いもしませんでした。当初、社内報には、4回連載でということでしたが、1回追加してもらって書いたものです。</p>
<p>まだまだお話したいことは沢山ありますが、時間が限られていますのでお手元の冊子(放浪記)を読んでいただければと思います。</p>
<p>この放浪の旅が、その後の私の人生で役に立ったかは、自分でも振り返ってみたことはありませんでしたが、この放浪記を書いてみて、会社に入って大変厳しい場面に何度か遭遇した時、乗り越えられたのはこの経験も大きかったのではないかと思っています。</p>
<p><input type="checkbox"/>まずやってみる (チャレンジ)</p>
<p>とにかく不安でもやってみる、失敗してもまたやればいいや、何とかなるさ</p>
<p><input type="checkbox"/>自分の目で見て判断する、感じる</p>
<p>人の言うことより自分の目で確かめてみる</p>
<p>これらは、会社に入って大いに役立ったと思います。</p>
<p><input type="checkbox"/>もっと日本や身近なことを知らなくては</p>
<p>ちゃんと勉強して卒業しよう、そして会社という組織に一回は入ろう、それから、英語力というのは流暢に話すことではない、中味なんだと、そのためには、自分の考えをしっかりと持たないと会話というのは続かないんだと思いました。</p>
<p>もう時間が来てしまいました。60分はあっという間ですね。</p>
<p>今日は私の講座に参加頂き、大変有難うございました。</p>
<p>最後に、皆さんの高校生活が有意義な3年間であることを願っています。</p>
<p>ご清聴有難うございました。これで本日の講義を終わりたいと思います。</p>